

南港野鳥園を廃止

渡り鳥生息地 影響懸念も

大阪市方針

大阪市は20日、大阪南港野鳥園(住之江区)など市立の5施設を14年度末までに廃止する方針を決めた。同園は鳥の生息地。市は「園内の環境は維持する」

としているが、自然保護団体からは生態系への悪影響を懸念する声も上がっている。

野鳥園は83年開園。約19畝の敷地に人工干潟や緑地が広がり、渡り鳥のシギやチドリなど約240種の鳥類が確認されている。入場

無料で展望塔から観察が楽しめ、年間約11万人が訪れている。

現在はNPOなどにて年間約2300万円で管理を委託し、利用者



廃止の方針が決まった大阪南港野鳥園(手前)
＝大阪市住之江区で20日午前9時40分、本社ヘリから小松雄介撮影

の案内や鳥類の調査、干潟の整備をしている。市は13年度末で園を廃止し、案内や調査の人員を削減する方針。市港湾局は「現在

の環境を適切に維持する。観察も自由に行えるようにしたい」として、干潟整備は続ける。

園の存続を求めてきた公益財団法人「日本野鳥の会」の大阪支部は「園がなくなれば、永続的に保護される保証がない。皆さんの管理で生態系が壊れたら取り返しがつかない」と懸念している。

市は他に、いきいきエイジングセンター(北区)▽舞洲野外活動施設(此花区)▽大阪南港魚つり園(住之江区)――を13年度末に、青少年センター(東淀川区)を14年度末に

閉館し、売却などを検討する。他の施設についても利用料などを見直し、14年度で計約1億7000万円の経費削減を見込む。

一方、市はこの日の幹部会議で、市営地下鉄・バス事業の民営化基本方針を決定。昨年

12月に発表した素案ではバスの営業距離を現行588キロから407キロに減らすとしたが、「公共交通機関の空白地を生む」などの批判を避けるため、路線を1系統増やし420キロに修正した。

【茶谷亮、原田啓之】